

平成22年4月30日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19402037  
 研究課題名（和文） イタリアの国境地域と島嶼地域の“境界領域のメタモルフォーゼ”に関する比較地域研究  
 研究課題名（英文） Comparative Research on “Metamorphosis of the liminal territories” in the Italian borderlands and insular regions  
 研究代表者  
 新原 道信（NIIHARA MICHINOBU）  
 中央大学・文学部・教授  
 研究者番号：10228132

研究成果の概要（和文）：本調査研究は、21世紀“共成”システム構築を全体構想として、グローバル化のもとで頻発する異物・異端排除をめぐる諸問題に対して、衝突・混交・混成・重合しつつ共存するヨーロッパの“境界領域”の“共成の智”を明らかにすることを目的として、“境界領域のメタモルフォーゼ”を鍵概念として、地域自治・自立、国際地域間協力、地域住民のアイデンティティの複合性・重合性に関する地域調査・聴き取り調査をおこなった。

研究成果の概要（英文）：This study evolved from our idea of constructing a “codevelopment” system for the 21st century against the tide of globalization in which the problems of exclusion are increasingly frequent. It seeks to clarify the ways in which “wisdom for codevelopment” is lived and embodied in “frontier” territories in Europe, which themselves try to coexist while conflicting, merging, amalgamating, and intertwining with one another. Under such objectives, we conducted research and interviews in certain areas, regarding the autonomy and independence of such local areas, the global inter-cooperation among the communities, and the composite/complex/hybrid identities of the community residents, while employing such key concepts as “metamorphosis of the liminal territories.”

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2008年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
年度			
年度			
総計	11,600,000	3,480,000	15,080,000

研究分野：社会科学B

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：国際研究者交流、多国籍、境界領域、メタモルフォーゼ、“共成の智”

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日のグローバル化、すなわち地球規模の規格化・画一化（と表裏一体をなす都市や地域の多民族化・複合社会化）は、社会に混沌、動揺、統治不可能性をもたらし、

異端・異物を排除・根絶する力は、2001年の「9.11」以後、ますます強くなってきている。ヨーロッパ諸国は、多くの移民とその第二世代以降の新たな「ヨーロッパ市民」を抱え、社会統合の危機に直面しており、

具体的問題はまさに個々の地域社会において生起している。構造的な暴力は様々な形で各所に遍在・潜伏し、「世界は言葉にならない叫びに満たされて」(P. ブルデュー)おり、自らの内なる異端・異物にどのように対峙するのかが、現代社会の焦眉の問題となっている。

(2) こうした問題解決への参照点として、カリブ海のクレオール思想が注目をあつめ、ヨーロッパの中からも、「統合 (integration)」「混合・結合 (incorporation)」という発想に加えて、「共生 (co-habitation, conviviality)」「持続可能な発展 (sustainable society)」という問題意識から、A. ランゲルやM. カッチャーリによって、「群島」という概念が提示されている。

(3) 共同研究者であったA. メルッチ (残念ながら白血病で2001年9月12日にこの世を去った) は、地域社会の破壊・再編の力に対して、自らをつくりかえていくメタモルフォーゼの力と“共成の智”の重要性を提起した。そしてA. メルレルは、こうしたメタモルフォーゼの力と“共成の智”は、ヨーロッパにおいては、とりわけ“境界領域を生きるひと (gens in cunfinem)”に内包されているとする。

(4) ここでの“境界領域”とは、国境の間のことでもあり、文化の境界、精神の境界例など、人類学者のV. ターナーの概念であるliminality, betwixst and betweenが示唆する領域も含意されている。たとえばトリエステで暮らすスロヴェニア系の子孫は、複数の“境界領域を生きるひと”であり、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリアは、“(様々な固有の歴史的社会的文脈を持った) 境界領域を生きるひとびと”によって構成されるどころの地域社会である。だとすると、H. M. エンツェンスベルガーも指摘しているように、グローバル化への地域社会・地域住民の対応、“共成”の可能性という点で、イタリア社会、とりわけ(歴史的に国境沿いに位置して、国境線の移動や人の移動、文化の“混交・混成・重合”を体験してきた) 国境地域の諸州や、海に開かれた島嶼地域といった“境界領域”とそこに生きる人々から学ぶことは、きわめて多いと考えた。

(5) ここから、本海外学術調査は、2004～2006年度の科研費・基盤研究(B) (海外学術調査)「21世紀“共成”システム構築を目的とした社会文化的な“島々”の研究」(課題番号: 16402031)の成果をふまえたうえで、イタリアのヴァッレ・ダオスタ州、トレンティーノ＝アルト・アディジェ州、フリウリ＝

ヴェネツィア・ジュリア州、サルデーニャ州および、これらの諸地域と隣接あるいは“ひとの移動”を通じて関連する諸国・諸地域を主たる対象として調査研究を開始した。

## 2. 研究の目的

(1) 本地域調査研究は、21世紀“共成 (codevelopment, cosviluppo)”システム構築を研究の全体構想として、これまで各種の助成金によってすすめてきた、サルデーニャと沖縄、沖縄とオーランドの比較研究、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア、クロアチア、スロヴェニアの地域調査研究など、一連の共同調査研究の到達点の上に立つものである。

(2) に今回の地域調査研究においては、調査研究が進展する過程で着目するに至った“境界領域のメタモルフォーゼ”と“共成の智”を理解し、そこから新たな21世紀“共成”システムの構築へとむかうことが、われわれの調査研究の目的であった。

## 3. 研究の方法

(1) 研究の方法は、多国籍の国際研究者交流に基づき、イタリアおよびポルトガル・ラテン文化圏に広く深いネットワークを有する研究協力者であるサッサリ大学教授A. メルレルや新リスボン大学教授のジョゼガブリエル・バストス等の助力とイタリア、スロヴェニア、クロアチア、アゼレス、カーボベルデの各大学人の協力により、地域調査研究をすすめた。

(2) 実証的な調査研究としては、まず第一に、調査対象地域とする地域が、世界システム(ヨーロッパ、イタリア)のなかでどのような役割を与えられてきたのか、またそこからどう抵抗・応答しようとしてきたのかを比較可能な形にまで理解・整理する。

(3) そのうえで、下記の点の解明をめざした。  
①現在いかなる社会・文化的コンフリクトが存在しているのか、  
②そのコンフリクトに現在の地域住民と地域社会はいかなる形での応答を試みているのか、  
③その過程で住民と地域は、いかなるメタモルフォーゼをなそうとしているのか、  
④この応答の試みは、第一の調査研究の課題で概観した歴史的な文脈といかなる関係性を持っているのかを明らかにする。  
⑤こうした実証的研究の成果にもとづき、“境界領域”の理論の練成を企図する。

(4) 調査に際しては、とりわけ下記の点に注意した。

①国内調査と比べて、滞在日数等はきわめて

限定されたものになることから、当該地域における研究協力者の連携の確保、研究協力者との日常的な連絡体制（メール等による）、滞在時の調査計画立案のための周到な準備等が欠かせない要素となり、実際の調査の進め方としては、当該地域の協力者の助力によってキーパーソンとインフォーマントを辿っていく「機縁」法を採用した。

②いつどの場所に入ることが出来るか、誰と会うべきか、調査研究の進展によって調査対象者・調査対象地域が当初の予定と変わってしまう場合など、日本側の研究者の都合ではなく、現地への受け入れ体制によって可変的に決定し、対象者・対象地のどこに力点をおくか（取捨選択）は、メルレルを始めとした海外共同研究者の助言に従った。

(5) 出来る限り体験と認識を共有するために、地域調査、インタビュー調査の状況は映像として記録し、各自が他のメンバーの調査の映像記録を見るようにした。日常的に自分および他者の映像記録をよく分析し、そこで作成した分析をML等で交換し、それを前提として、日本国内の研究会においてリフレクションを蓄積し、記録を残し、このプロセスそのものも日誌・資料としてアーカイブ化した。

#### 4. 研究成果

(1) 研究成果は、まず何よりも、実証的調査研究の成果に基づき析出された“境界領域”概念の練成にある。すなわち、“境界領域 (cumfinis)” を、①国家の境界とかかわる“テリトリーの境界領域 (frontier territories)”、②「時代そのもの移行もしくは移動 (passaggio di epoca)」 “メタモルフォーゼの境界領域 (metamorfosi nascente)”、③個々人の内面における変動とかかわる“心意現象の境界領域 (liminality, betwixst and between)” という三つの側面から見ていくという理論化の試みである。

(2) 第二に、実証研究をすすめるなかでの派生的な成果として、スロヴェニア・クロアチアとの間国境地域、アルプス山間地域、サルデーニャ、アゾレス、カーボベルデなどでの調査のなかで、“メタモルフォーゼ”の主体的条件を考える際の概念として、“異境の力 (una capacità "di confine")” が析出された。

① “異境で生き抜く力 (una capacità di vivere oltre i confini)”

② “いくつもの異境を旅する力 (una capacità di viaggiando nei vari confini)”

③ “異境を創り直す力 (una capacità di ricomporre i confini)”

(3) この成果に対しては、2007年度と2009年度にサッサリ大学、2008年度にミラノ大学に招聘されておこなった、この研究成果に基づく講演においては、イタリア・ヨーロッパの研究者に大きなインパクトを与えたことが、学会誌や会報 (WEB 上のもも含めて) 等で紹介された。

(4) その結果、今後の国際研究者交流／海外学術調査の課題として、下記の点が共同研究者の間で確認された。島嶼社会とひとの移動の研究を有機的に結びつけるテーマとして、大航海時代のポルトガルの航海者たちと先住民の衝突・混交・混成・重合の諸過程 (passaggio) を辿り、アゾレス、マデイラ、カポベルデ、そしてレウニオン、ブラジルなども含めた“境界領域”は、いかなる形でメタモルフォーゼをしてきたのかを調査研究し、これまで調査研究を蓄積してきたサルデーニャ、オーランド、イストリア、アルプス山間地域などの事例と比較する。ここでは“境界領域 (cumfinis)” を、①テリトリー: frontier territories、②未発の状態: stato nascente、③精神の内的境界: liminality, betwixst and between の三つの視点から考えていく、という課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

① 新原道信、境界領域のヨーロッパを考える～移動と定住の諸過程に関する領域横断的な調査研究を通じて～、『横浜大論叢』人文科学系列、第60巻・第3号、137-167、2010年、無 (依頼原稿)

② 新原道信、A. メルッチの“境界領域の社会学”、『中央大学文学部紀要』社会学・社会情報学、通巻233号、51-76、2010年、無

③ 新原道信、変化に対する責任と応答を自ら引き受ける自由をめぐる、『法学新報』、第115巻・第9・10号、697-722、2009年、無 (依頼原稿)

[学会発表] (計5件)

① Michinobu Niihara, “Alberto Melucci: confini, passaggi, metamorfosi nel pianeta uomo”, nel convegno: A partire da Alberto Melucci ··· l’ invenzione del presente, Milano, il 9 ottobre 2008, Sezione Vita Quotidiana - Associazione Italiana di Sociologia, Dipartimento di Studi sociali e politici - Università degli

Studi di Milano e Dipartimento di  
Sociologia e Ricerca Sociale - Università  
Bicocca di Milano

〔図書〕(計3件)

①A. メルッチ著、新原道信訳、ハーベスト社、プレイング・セルフ～惑星社会における人間と意味～、2008年、256頁

②新原道信、大月書店、境界領域への旅～岬からの社会学的探求～、2007年、295頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新原 道信 (NIIHARA MICHINOBU)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：10228132

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

古城 利明 (FURUKI TOSHIAKI)  
中央大学・法学部・教授  
研究者番号：70055185

藤井 達也 (FUJII TATSUYA)  
上智大学・総合人間科学部・教授  
研究者番号：80248905

川原 彰 (KAWAHARA AKIRA)  
中央大学・法学部・教授  
研究者番号：30224819

中島 康予 (NAKAJIMA YASUYO)  
中央大学・法学部・教授  
研究者番号：90217729

柑本 英雄 (KOJIMOTO HIDEO)  
弘前大学・人文学部・准教授  
研究者番号：00308230

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)  
立教大学・異文化コミュニケーション  
学部・教授  
研究者番号：60295524

田渕 六郎 (TABUCHI ROKURO)  
上智大学・総合人間科学部・准教授  
研究者番号：20285076

中村 寛 (NAKAMURA YUTAKA)  
多摩美術大学・造形表現学部・専任講師  
研究者番号：50512737

(4) 研究協力者

アルベルト メルレル (ALBERTO MERLER)

サッサリ大学・文哲学部・教授

ジョゼガブリエルペレイラ バストス  
(JOSÉ GABRIEL PREIRA BASTOS)  
新リスボン大学・人文社会科学部・准教授

鈴木鉄忠 (SUZUKI TETSUTADA)  
東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻・後期博士課程